

1 岐阜県 白川町議会

「インクルーシブ教育について」

平成3年、白川保育園を建て替える際、歩いて3分のところにある白川小学校の1階に間借りし、自然と保・小の交流ができた。「インクルーシブ」の意味は包摂・包含で、反対の意味は排除。障害のあるなし、年齢、男女の性別、国籍の違いを受け入れて共生する教育を意味するため、小学校の中に保育園が入ったことが包含的な教育のきっかけとも言える。

次の出来事は、平成11年の役場機構改革。それまで住民課にあった保育園事務を、町長の判断で教育課に移した。同じ建物の中に保育園・小中学校・福祉関係の担当課が入ることで連携が進んだ。

さらに、平成26年から、文科省のモデル事業を受けてインクルーシブ教育を研究してきた。

白川町には子ども発達支援システムというものがあり、その中核をなすのが「白川町発達支援連携協議会」。全大会は年3回開催され、保育園長、校長その他、児童生徒に関わる機関の関係者が総勢32名集まって、子どもたちの就学について話し合っている。

算数や国語は特別支援学級、音楽などは通常学級で学ぶという形は箕輪町と同じだが、白川町では、一人の子どもに関わる機関がいかに連携するかと、指導監がいかに継続して関わるかが大切にされていると感じた。

2 愛知県碧南市 複合施設コリン 施設見学

「地域共生社会方針に沿った共生型モデル施設の取り組みなどについて」

複合施設コリンは、敷地内に「幼保連携型認定こども園」、「放課後等デイサービス」、「高齢者デイサービス」等があり、隣接した敷地に就労継続支援B型事業所、グループホームなども建設予定。祖父が病院を作って80年。現在の社長は、働く女性の環境を整えるためこども園の設置を検討していたところ、様々な地域課題に気づき、その解決のため複合施設を設置することを決めた。一般的には外から見えなくするような児童発達支援施設を、あえてガラス張りに設計。お互いを知ることで、人とのつながりを作れる場所を目指す。

高齢者施設の夜間の見守りをやめるなど、これまでの常識にとらわれない業務改善を、信念をもって貫かれていることに感銘を受けた。

3 滋賀県 米原市

「米原駅前デマンド交通について」

米原市乗合タクシーまいちゃん号は、運行時間の1時間前までに予約をする乗り合いタクシー。6時から19時30分まで運行しており、市内に500か所以上の停留所がある。

駅前に停留所があり、利便性が高そうだと感じた。

4 滋賀県 日野町議会

「障がい者福祉。地域共生社会ビジョンのあり方について他」

日野町の障害者福祉を一手に担っているのが、社会福祉法人わたむきの里福祉会。グループホーム、就労継続支援B型事業所、放課後等デイサービスの事業とともに、町からの委託で学童保育も行っている。学校と

交流したり、お祭りをやったり、町民のほとんどが知っている事業所で、高校生がボランティアに来て、その後就職をするなどしている。中間就労では、関わりのある企業が400社あるとのこと。

まさに、ゆりかごから墓場まで地域福祉を担っていた。町長の、「障害者福祉だけを抜き出すのではなく、地域福祉を実践している」という言葉が印象に残った。

全体を通じて

お話を聴きした3か所は、どこも地域住民の顔の見える関係づくりが実現できていると感じた。